

平成27年12月11日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）学校の業務改善の促進について

教員を対象に発行している情報誌に、業務改善を学校経営の柱と位置付けて、積極的に取り組んで成果を出した、東広島市立寺西小学校の取組が業務改善の成功事例として紹介されている。

それによると、教員の負担が軽減し、学校が活性化し、その結果、学力が向上したなど、数多くの成果が上がり、「児童と向き合う時間が確保できている」、「私は学校のチームの一員だと感じる」という教員が増えたとのことであった。

同校の校長も、「子供と向き合う時間が増えたことが仕事のやりがいにつながり、チームの一員だという意識が高まって、職員のモチベーションの向上につながった。」と語っている。

私は、業務改善を通じて、全員が知恵を出し合い協力して改善していこうとする「全員参加」の雰囲気生まれたことが、業務改善が成功した要因であり、改善に向かって全員で取り組んでいくというプロセスこそが重要だと考える。

そこで、教育委員会では、寺西小学校の業務改善の成功を、どのように捉えているのか、また、こうした取組を県内の他の学校に、どのようにして広めていこうとしているのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

東広島市立寺西小学校をはじめ、昨年度の業務改善モデル校では、校長を対象に、課題の特定や優先順位付け、また、コーチングなどのマネジメントスキルの向上のための研修を実施したところでございます。

こうした研修によりまして、各モデル校では、教職員からアイデアを引き出すことなどにより、参画意識やチーム意識を高め、学校全体で業務改善の取組が進み、子供と向き合う時間が向上するなどの成果につながっているものと認識いたしております。

こうした取組を今年度のモデル校で継続するとともに、モデル校の連絡会議におきまして、好事例の共有に努めたり、リーフレットなどによりまして全ての学校に紹介するなど、その普及に努め、引き続き、更なる業務改善の推進に努めてまいります。